

馬場ひでゆきの活動日誌

No.75

強風の猛威 木々が根こそぎ倒壊 三和区などで突風被害発生

9月10日、上越市の山沿いを突風が襲いかかりました。三和区などを中心に倒木や屋根やトタンの飛散などの被害が生じました。私は、12日に上野公悦市議会議員と現地に向き、被災状況を確認してきましたので、報告します。



ていました。突風で屋根がめくれ、雨が二階の部屋になだれこみ、階段を滝のように流れ、多くの家財が水浸しで使いものにならなくなってしまったということでした。

●恐怖！シャッターが舞い上がる！（三和区島倉）

左の写真は、農機具店の倉庫です。シャッターが突風でめくられてしまっていました。もはや使い物になりません。倉庫の右側のシャッターは吹っ飛んでしまいました。その行先は上の写真の電柱です。これは鳥の巣ではありません。風でシャッターが舞い上がり、近くの電柱に張り付いてしまったのです。



●スギの大木がなぎ倒される！（三和区の大東）

この地区は、突風の直撃を受け、被害が多発しました。庭のスギの木が倒壊し、木が家屋に覆いかぶさりめり込んでしまいました（右下の写真）。人的被害がなかったのが不思議なくらいです。



●窓の向うが見えなくなる

住民の一人からは、大雨と突



風の様子を聞きました。14時50分頃、自宅の居間にいたところ、空が真っ暗になり、すぐに大雨と突風になり、窓の向うが真っ白になった、木が倒れたり、屋根が飛ぶのもまったくわからなかったとのことでした。わずかに十分程度の出来事のようにです。今も雷や風の音を聴くと、怖くなると言っておられました。

★迅速な復旧のために

私からは、住民の皆さんに対して、罹災証明書をもらえるように、被害の実態を写真などで証拠化しておくことをお伝えしました。

屋根などの家屋の修復、使用不可になった家財の搬出、倒木撤去など課題は山積みです。公費による援助が認められるべきと考えますので、他の議員さんと協力しながら、新潟県、上越市に働きかけていきます。



三和区の道路、電柱が傾いてビックリ



私の推し本その27

高村光太郎「智恵子抄」（龍星閣）

中学生の時期に読みました。長姉の本棚にありました。今読むと、ほとぼしる愛情の描写もあり、中学生には早すぎたかも。

光太郎は、詩集の始めから、智恵子に対して「いやなんですあなたのいってしまうのが」と愛のメッセージを綴ります。二人の食事は、戦中ですから、くさやの干物、たくわん、生姜の赤付けなどと貧相なんです。その貧しさが「嵐よりも烈しい力を帯びわれらの食後は 不思議な肉慾をめざましめて 豪雨の中に燃えあがる われらの五體を讃嘆せしめる」（「晩餐」より）んだそうです。貧しくても楽しかったんでしょうね。

そして、「自分の妻が狂気する 自分の著物がぼろになる」（「人生遠視」より）。智恵子の精神が病んでいっても決して智恵子を見捨てない。「人間商売さらりとやめて」九十九里の浜辺で千鳥と遊ぶ智恵子を後ろからそっと見守ります（「千鳥と遊ぶ智恵子」より）。なんて優しいんでしょう。

そして、レモンをかじりながら逝った智恵子を「写真の前に挿した桜の花かげに すずしく光るレモンを 今日も置かう」と追悼します（「レモン哀歌」より）。こんなに愛される智恵子が羨ましい。

戦後は、戦中に戦争賛美の詩を描いてしまったことへの悔恨と反省から、岩手の山奥の小屋で自炊生活を送りました。

生き方が直線的でぶっきらぼうで、一途でしかも潔い。

詩集
智恵子抄
高村光太郎

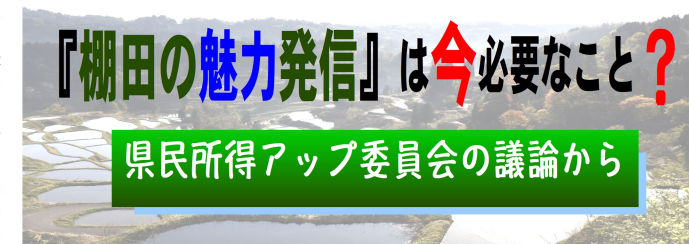
●今、力を入れるべきは中山間地の農業振興であり、観光ではないのでは？

中山間地では、農業の担い手が減少し、荒廃農地、耕作放棄地が拡大しています。米の値段が上がっても、人手がいないということで耕作面積を広げるところが縮小しているという話をよく聞きます。今、大事なことは、農業の担

面積が47都道府県で最も広く、新潟県が「棚田日本一」の県であり、棚田の美しい景観や歴史・文化のストーリーを観光資源として活かしていきたいというものです。県は、本年度、予算を組んで、棚田をテーマとしたイベントの実施に取り組みんでいます。私は、次のとおり、意見、要望を述べました。



棚田が美しいのも、担い手さんたちが棚田で耕作しているからです（尾神岳麓の田圃の風景）



『棚田の魅力発信』は今必要なこと？

県民所得アップ委員会の議論から

9月8日、新潟県議会で、県民所得アップ対策特別委員会が開催され、私も委員として出席しました。議題は、「棚田の魅力発信と観光コンテンツ化に向けた取組」です。

県の考えは、新潟県の棚田の

い手を確保する課題に向き合うことであって、観光を論ずることではないと考えます。●棚田の担い手に対する実態調査を求めます。

県は「にいがた棚田フォーラム」を開催して、棚田の保全や地域の活性化、関係人口の拡大を議論することのこのことです。このフォーラムでは、県内各地の中山間地農業の担い手の声を是非聞いてほしいです。

例えば、担い手確保のために新規就農者の支援、地域おこし協力隊の派遣を進めてほしいと思います。

また、関係人口の拡大でも、単なる観光ではなく、棚田オーナー制度のように、棚田を持ち、年間を通して農作業に従事し、取れた米を取得して、自分の棚田に愛着がわくような取組を進めてみてはどうでしょうか。

8月30日～9月12日
打越さくらさんを囲む会



7月の参議院議員選挙で当選した打越さくらさんを囲み、政治の現状や今後の課題について懇談をしました。市民同士の集まりの会で、こういうお付き合いは大事にしたいです。

●9月2日 oba+（オバプラス）おしゃべり会（当事務所）

●6日 性的少数者の声に学ぶ会（市民プラザ）

9/6 直江津うみまちアート

「ライオン像のある館」で、作品鑑賞。この建物、贅沢な造りで、落ち着きがあつてステキでした。左の写真は、宮崎俊英さん作『渇き』です。



●8日 県議会・県民所得アップ対策特別委員会（県議会）

●12日 三和区で突風被害の視察 突風の威力にただただ驚くばかりでした。

発行責任者：馬場ひでゆき事務所

住所 新潟県上越市本町3丁目3番3号

ダイヤパレス高田弐番館2階

電話 025-546-7110

ファックス 025-546-7666

メール kengi-babahideyuki@wind.ocn.ne.jp